

Chairperson New Year's Message

本市では「健幸と個性が創る活力と希望あふれる故郷 伊達市」を将来像とする「伊達市第2次総合計画」を、一昨年4月よりスタートさせるとともに、少子高齢化や人口減少が進行するなかで昨年「伊達な地域創生戦略」を策定し、「こどもづくり」「若者の定住化と子育て支援」「健幸都



新年おめでとうございます。年頭にあたり、市議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、希望あふれる輝かしい新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。また、日頃より市議会に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

昨年は、伊達市にとって合併10周年という記念すべき年にあたり、記念式典をはじめ各種イベントが開催されてきました。特に、8月に開催されました「だてな太鼓まつり」では2日間で8万人以上もの来場者を数え、勇壮な太鼓の音とともに、震災からの復興とこれからの10年先を見据えたまちづくりについて、市民の皆様と想いを一つにできたと思っております。

市づくり」をこれまで以上に進めることとしていきます。

また、復興支援道路と位置づけられております国道115号相馬福島道路につきましては、順調に工事が進捗しており、平成29年度には霊山IC〜阿武隈東IC間の供用開始が予定されています。供用開始により、県北地方と相馬地方との交流・物流がこれまでに以上に活発となることから、この道路を活用しての地域振興に大きな期待がされるところであります。

さて、昨年は地方議員の政務活動費の不正受給による辞職が相次ぎ、大きな社会問題にもなりました。私たち伊達市議会議員もこの事案を重く受け止めるとともに、市民を代表する議員

として、市民の信頼をもって市政に参画するために、9月議会において議員発議により「伊達市議会議員政治倫理条例」を定めました。これにより、個々の議員が改めて襟を正し、政治倫理基準を遵守して議員活動に努めてまいります。

私たち議員は、これからも市民の皆様の声を十分にお聞きし、住みやすい伊達市づくりのために議員一同最大限の努力を傾注してまいりますので、引き続き議会活動に対し、ご指導とご協力を賜りますようお願いいたします。

この一年が市民の皆様にとりまして、幸多いよい年になりますようご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

住みやすい伊達市づくりのために

伊達市議会議員

安藤 喜昭

ANDO YOSHIAKI



2017

年頭のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。昨年、我々の伊達市は合併10周年を迎え、記念式典の挙行と共に市民憲章や市歌の制定など一人前の市となったことをお祝いしましたので、今年はその10年に向かっての出発の年と言えます。

また今年、あの未曾有の大災害からの復興の要として国が進めている「相馬福島道路」の一部、霊山道路の開通が予定されており、残る部分も今後数年以内の開通が期待されております。これに合わせ、当市も市内4箇所に設置される各ICについて、霊山高原構想、道の駅、保原工業団地の拡張、高子駅北地区の住宅団地、堂ノ内地区の大規模商業開発などに一層本腰を入れて取り組まなければなりません。

これらは「少子高齢・人口減」という、かつて無い社会の到来に対しての取り組みに繋がるものであり、伊達市が目指す「健幸都市」の建設でもあります。

若者の故郷への定住には、

まず雇用の確保が肝心であることから、企業誘致に取り組みと共に地場産業の育成や伊達氏の歴史を生かした歴史観光による雇用の創出にも取り組んでいく必要があります。

同時に、若者が安心して働くための子育て支援の充実と共に、子育ての楽しさや生活の潤いが感じられるまちづくりも進める必要があります。

また、元気な高齢者を増やす健康運動システムの取り組みと共に、ケアが必要となった時の支援の充実や車社会の中で高齢に伴う免許返納が余儀なくされても困らない社会

の構築などが必要です。そのため、かつての三世代同居による家族間での共助によるケアから、現在のような核家族が進行した社会においては、「地域が家族」となって隣人などのボランティアによる共助社会の構築が必要で、その円滑化を図る観点から「地域通貨」の導入を図っていく必要があります。

次の10年に向けて、これからの時代にあつた新しい取り組みを行って、「安心して歳がとれ、子育てのできるまち・伊達市」を目指し、新たな出発をいたしましょう。

次の10年へ向けて

伊達市長

仁志田 昇司

NISHIDA SHOJI



Mayor New Year's Message